

避難者健康相談・交流会、心のケア訪問事業

=東日本大震災で避難を余儀なくされた方を中心に=

(実施期間) 平成 23 年度～26 年度

(基金事業メニュー)

対面型相談支援・強化モデル事業

(実施経費) 平成 26 年度 154 千円

(実施主体)

(154 千円)

茨城県高萩市

【事業の背景・必要性】

東日本大震災は多くの死者、犠牲者を出した未曾有の大災害であり、その後の東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故もあり、各地に大きな被害をもたらした。

高萩市でも家屋の倒壊等により避難を余儀なくされた市民や、原発事故により福島県から避難されてきた人たちがおり、応急仮設住宅の入居者から、不眠、体調不良、孤独感、不安感の訴えが多くあった。

また、原発事故による福島県からの避難者は特に孤独感、不安感が強く、同じ原発避難地域から避難している人との交流を強く望んでいた。

【地域の特徴・自殺者数の動向】

茨城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、西は多賀山地が連なり、その間を花貫川と関根川が流れて渓谷をつくっている。これらの海や山の自然景観は県の自然公園に指定されている。また、北部は福島

	総数※	0～14 歳	15～64 歳	65 歳～
総数	29,378 人	3,364 人	17,133 人	8,881 人

(出典:茨城県常住人口調査 平成 27 年1月1日現在)

※年齢不詳は含まない。

県東白川郡埴町と茨城県北茨城市に接し、南部は日立市、西部は常陸太田市に接している。東京からは約 150 km で、常磐自動車道を利用して約 2 時間の距離に位置する。

ここ数年間の当市の自殺死亡率は、東日本大震災の翌年である平成 24 年には、38.43 と過去 5 年において最も高い数値となった。男女比は、平均して 6 : 4 で男性が多い。年齢別に見ると、60 歳代が最も多く、次いで 50 歳代、80 歳代に自殺者が多かった。自殺の原因として、最も多いのが健康問題、次いで経済・生活問題、家庭問題であった。

高萩市の自殺者の状況(発見日ベース 発見地)

年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
自殺者数	12 人	11 人	12 人	5 人	3 人
自殺死亡率	37.50	34.73	38.43	16.11	9.74

(出典:地域における自殺の基礎資料(内閣府))

【事業目標 事業内容】

自殺予防の観点から、避難者等の健康状態や生活状況を把握し、精神的にハイリスクな方々を家庭訪問等で継続的に支援しながら、心身の健康づくりを図ることを目標に事業を行った。

原発事故での避難者は、家族や住み慣れた地域とも離れているため、同郷の方々と交流することで孤立感を少しでも解消できるよう、健康相談会・交流会を実施した。

○原発避難者の健康相談・交流会（つどいの会）年1回

対象者…原発事故での福島県からの避難者

内容…フリートーキングでの交流

個別相談

スタッフ…精神保健福祉士、看護師、保健師

○家庭訪問 対象者…市の応急仮設住宅入居者や福島県からの避難者

スクリーニング質問票（SQD）を用いて精神的な問題のあるハイリスク者を見分ける。特に PTSD やうつ傾向のある人については継続的な支援を行った。

訪問者…精神保健福祉士、看護師、保健師

【事業実施にあたっての運営体制】

市の健康づくり課が主体となり事業を実施した。

庁内の関係課職員で組織する自殺対策連絡会（たかはぎハートウォーム連絡会）を設置し、自殺対策の事業全般の実施内容等について協議し、総合的な調整を図った。

【事業の工夫点】

- ・健康相談会・交流会（つどいの会）は、家庭訪問で原発避難者と顔見知りになった職員が、直接声をかけて誘った。
- ・参加者同士が話しやすい雰囲気を作れるよう、会場を和室にする等全員が話せるよう進化した。
- ・家庭訪問は、新たに市内に避難してきた人について、把握でき次第早めの訪問を実施した。
- ・訪問担当職員でケースカンファレンスを開催し、ハイリスク者の見極めや訪問頻度等の検討を行い、医療機関や関係機関等へ紹介するなどの支援につなげた。

【事業成果及び評価、今後の課題、その他特筆すべき点】

原発避難者の健康相談会・交流会（つどいの会）については、平成 23 年度から毎年開催し、参加者同士のつながりができ、26 年度には福島県からの避難者の会が自主的に結成された。

時間帯や曜日を変えても参加者は同じであり（26 年度参加者 7 世帯 9 名）、参加者からは避難者の会を広めてほしいとの要望があったので、チラシを作成し、市の窓口に置いたり、家庭訪問時に持参している。自主的な避難者の会も発足したばかりなので、今後は、市からの情報提供や場所の提供、会からの相談に応じるなどの支援を行っていく。

家庭訪問をした避難者は、年月の経過とともに心の不調を訴える人は少なくなっているものの、まだこころの支援が必要なハイリスク者（42 世帯中 13 世帯）はいるので関係機関と連絡を取りながら継続していく。

（問合せ先） 茨城県高萩市健康福祉部健康づくり課

TEL：0293-24-2121

E-mail：kenkou@city.takahagi.lg.jp

URL：http://www.city.takahagi.ibaraki.jp/